

久保忠一後援会ニュース

活動報告秋号 2011年10月8日

発行者 鴨川市議会議員

久保忠一 (くぼただかず)

住所 東条地区広場1709番地 1960年3月9日 生所属団体・役職
エビハラ病院(薬剤師・ケアマネ)、NPO法人床ずれ研究会(代表)、日本褥瘡
学会(千葉県支部実行委員)、認定NPO法人生活情報推進ネットワーク(副
代表)など

連絡先

090-7402-3941

FAX: 04-7093-6030

E-mail: qqbm5s5w9

@able.ocn.ne.jp

携帯メール

toppie.nozomi@docomo.ne.jp

住所: 東条地区

広場1709番地



がんばろう
日本



ごあいさつ

人間の幸せとは何でしょう。

自分の境遇や与えられた能

力その他のものは、個人の努力で

はどうしようもない結果的部分

とすれば、そこに格差を感じな

くする社会を目指すこと、常に

平準化を目指さなければならな

いのが政治の役目です。

一方、社会が発展するには、

適材適所で能力のある金の卵を

育成し、産業や技術を発展させ

る結果、経済効果が生まれ、多

くの人の回るお金の流れを生み

出すところが重要な部分とも

言えます。

前者は福祉主義的、後者は

政治行政による介入をなくし、

自由な発想と経済活動こそが

社会を発展させるという自由主

義的思想に立脚すると考えま

す。

究極的には能力重視なのか、

思いやり重視なのか、と言う対

立概念にもなりますが、本当は

どちらか車の両輪のように考え

て行かなければ、国が間違った方

向に行く恐れさえあると思いま

す。

それでは、今の日本はどうなの

の国政には思いやりも無ければ、

能力も不足していると言わざる

を得ないのではないでしょう。

国のリーダーが取るべき態度

とは、特に何か大変な事態になっ

たときは寝食を忘れて努力する

が、他人や弱者に対し、正しい

意味でやさしく接することでは

ないかと考えます。

ところが、このたびの、大震災

被災地に行ってみて、その物理的

復興の遅れもさることながら、ひ

とりの力の無力さも感じまし

た。

瓦礫処理に関係する様々な

法律や条例、二重ローン、水産

業や水産加工業の再生の問題に

関係する様々な法律や条例が

足かせとなっています。復興財源

の捻出方法の決定においても、

官僚の厚い壁に跳ね返されてい

るのでしょうか。

政治や法律などの制度の問題

も、それを運用するのは生身の

人間であり、その中枢の人たち

が組織の統制を守ることに固執

することから、意識の持ち方を

変えることこそが究極の問題で

す。そうすれば、自ずと何をし

なければならぬか道が見えて

と一人ひとりの熱意とやる気を

高めれば、世界一真面目で勤勉

な日本人であれば、絶対に復興

は成し遂げられるはず。

そして、鴨川においても、そ

れは当てはまるのではないでしょ

うか。今ある産業の基盤の上に、

先見の目を持って、30年後の鴨

川が発展できるように全身全霊

臨んでいきたいと思えます。

市民会館建設、市役所耐震

化をどうするか。否それ以前に

観光客落ち込みによる地域経

済の低迷をどのようにしてこ入れ

するのか。目の前の難題を処理

しながらも、将来を考える余力

を持たなければ、合併により恩

恵を受けてきた特例の財源も先

細りとなる中、一刻も早く長期

的展望を立てなければなりません。

鴨川の持つポテンシャルで、千

葉県を全国を元気にしていしま

しょう。

次頁以降に活動報告を掲載

いたしましたのでご覧下さいま

せ。

末筆ながら、皆様方のご健康

とご発展を心よりお祈り申し上

げます。

